

授業科目 解剖生理学 II

【担当教員名】 川中 健太郎		対象学年	1	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		◎	
【概要・一般目標：GI0】 解剖生理学 I では、解剖生理学 I に引き続いて、身体の構造と機能についての基本的な知識を学習する。栄養生理的な面だけでなく、ヒトの動物的機能、つまり、ヒトが動くことができるしくみや脳における認知機能についても学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1) 泌尿器系の構造・働きと仕組み、2) 生殖器系の構造・働きと仕組み、3) 神経・感覚系の構造・働きと仕組み、4) ならびに内分泌系の構造・働きと仕組みを理解して説明できるようになる。特に、恒常性の概念と仕組みについて理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	腎臓の構造				講義
2	尿細管における再吸収の仕組み				講義
3	体水分量・塩分量の調節				講義
4	男性および女性生殖器の構造と働き				講義
5	性周期とホルモン				講義
6	妊娠と出産				講義
7	骨格筋の収縮機構				講義
8	中枢神経系の構造				講義
9	中枢神経系の働き				講義
10	末梢神経系の構造と働き				講義
11	視覚と聴覚				講義
12	嗅覚と味覚				講義
13	内分泌系による血圧調節				講義
14	内分泌系その他の働き				講義
15	まとめ				講義
【使用図書】		<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>			
教科書 (必ず購入する書籍)		人体の構造と機能 ナーシング・グラフィカ 1 解剖生理学 メディカ出版 4,800 円			
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 期末試験と出席状況		【履修上の留意点】 高校時代に“化学”“生物”を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は補習によって“化学”や“生物”を学習して学力を補強しながら授業に臨むこと。			